

# アシモフ『夜明けのロボット』 のあらすじ

takaidos

## 夜明けのロボット

---

アシモフ。

ロボット・シリーズ④。

1957年発表。

90%が駄文でどうにかならないものか、と思うが、最後の数十ページでこの小説が名作に変わってしまう。!!?

### <目次>

#### 上巻

- 1.ベイリ
- 2.ダニール
- 3.ジスカルド
- 4.ファストルフ
- 5.ダニールとジスカルド
- 6.グレディア
- 7.ふたたびファストルフ
- 8.ファストルフとヴァジリア
- 9.ヴァジリア
- 10.ふたたびヴァジリア
- 11.グレミオニス
- 12.ふたたびグレミオニス
- 13.アマディオ
- 14.ふたたびアマディオ
- 15.ふたたびダニールとジスカルド
- 16.ふたたびグレディア
- 17.議長
- 18.ふたたび議長
- 19.ふたたびベイリ

(解説/高橋良平)

### <登場人物>

イジャイラ・ベイリ:私服刑事。45歳。2年前に『裸の太陽』でソラリアに行った。階級C-7。

ベントリイ・ベイリ:その息子19歳。

Rジェロニモ:市警のロボット。ヒューマノイド型だが皮膚は比較で表情は一定。

ウィルソン・ロス:市警察・本部長。

ラビニア・デマチュク:司法次官。女性。45歳。

Rジスカルド・レベントルフ:オーロラ・ロボット。ファストルフ博士の執事。読心・衝動操作。

Rダニール・オリヴォー:オーロラ・ヒューマンフォーム・ロボット。人間にしか見えない外観。ファストルフ博士の共同研究者サートン博士に似ている。

Rジャンダー・パネル:オーロラで殺されたヒューマンフォーム・ロボット。

ファン・ファストルフ:オーロラのロボット工学博士。オーロラ年で165歳、地球年で124歳。

人類党(オーロラの利益だけ考える世界党の反対派)を率いる。ヒューマンフォーム・ロボットの開発、心理歴史学と脳の研究。

ファーニャ:ファストルフの妻？政治に興味なし。

グレディア・ソラリア:元デルマー夫人。ソラリアからオーロラに移住した。

Rパンドオン:グレディアのロボットで屈強なもの。

Rボーグラフ:グレディアの身の回りを世話するロボット。

ヴァジリア・ファストルフ:ファストルフ博士の娘。世界党(オーロラ右翼)。RIA(Robot Institute Association.ロボット工学研究所)。ヴァジリア・アリーナを名乗る。

ルメン:ファストルフ博士の娘。腹違い。世界党の地方党员。

サンティリクス・グレミニオス:オーロラ人。グレディアにしつこく言い寄った男。美容師。50歳くらいだが立居振舞いは10代。パーソナル・アーティスト=ヘア・デザイナー+ドレス・デザイナー。

Rブランディジ:グレミニオスのロボット。

ケルドン・アマディオ:ロボット工学研究所所長。

マルーン・シシス:研究所のロボティスト。所長の助手。

ルチラン・ホーダー:議院の議長。採決権をもつ。331歳。脚が短く背が低い。

<あらすじ>

ベイリが引率してシティの人間たちは地上で太陽に当たりながらロボットに任せていた労働をしていた。

遠くにはドーム・シティがいくつも見える。

息子のベンは木陰で休憩中のベイリにまたソラリアの女性に会いたいのか？と訊く。

そこにRジェロニモがメッセージを持って来る。

オーロラに事件が発生したようだ。

ベイリはロボットを連れて、約5千平方キロの面積のドーム・シティに入り、高速歩道を使って市警察へ駆け付ける。

新しい司法次官デマチュクに「オーロラのファストルフ博士がロボット殺し嫌疑をかけられている、博士を陥れる陰謀を暴くよう」に命令が下る。

ベイリはオーロラの宇宙船乗りハイパースペース・ジャンプする。

船内ではロボット・ジスカルドがベイリを監視していた。

ダニール・オリヴォーもベイリを守るために来ていた。

今回、精神機能停止されたロボット・ジャンダー・パネルは、オーロラおよび宇宙に2台しか存在しないヒューマンフォーム・ロボットのうち1台で、もう1台はダニールだった。

ジスカルドが惑星オーロラを直接眺めないようにアストロシミュレーターというキューブの箱を渡し、ベイリはそれで宇宙空間を体感する。

オーロラに到着すると、ファストルフ博士が待っていてくれて、エオス市の家に案内される。

食事しながら、ファストルフはRジャンダーを機能停止させることが出来るのは自分しかいないと話す。

「動機もある」といい、説明するために「外へ出よう」という。

外へ出る前にベイリはパーソナル(レストルーム)に入る。

立体映像でレストルームの中は滝のある野原ようになる。

そしてファストルフといっしょに外へ出て、Rジャンダーが停止された隣家向かう。

ファストルフ博士は言う。

「人類が再度宇宙植民して行く場合の最終形態は『ヒューマンフォーム・ロボット』である、と。

今のスペーサー(元地球から出て長命の宇宙人になった)は誤りだった。

ヒューマンフォーム・ロボットに新たな惑星を開拓させて、自分たちは後からその惑星に移住する、という考えに反対。。地球人に新たな惑星の開拓の余地を与えたい。」

⊕ その反対派は、地球人の宇宙への進出に反対。

隣の住居、ジャンダーが死んだ所に行くと、そこに住んでいたのは、なんとグレディアだった。

グレディアはダニールを見るとジャンダー似ていると遠ざけ、ベイリとファストルフと話す。

ファストルフが辞した後、ベイリは彼女と二人だけで話す。

グレディアはベイリの頬に触った時に、愛やエクスタシーを感じたという。

ソラリアでは性的接触は生殖を除いてタブーだったが、オーロラでは自由恋愛で、多くの男たちと関係を持ってみた。

しかしベイリ頬に触れた時に感じたものはオーロラでは感じなかった。

ベイリは殺されたジャンダーはグレディアの愛人だったのか？と訊くと、彼女は「夫だった」と答えた。

ベイリはジャンダーの遺体を確認する。

調査が終わればプラズマ・トーチで元素に帰され、ホログラムと記憶だけが残るのだという。

グレディアはベイリなら犯人を見つけられる、という。

ファストルフ邸に戻って来て、ベイリは「なぜグレディアにジャンダーを貸したのか？」と訊くと、ファストルフは素直に答えようとはしなかった。  
グレディアに対する同情や親近感であるという。

そして自分の2人の娘のうちのひとりヴァジリアについて話す。

オーロラでは子供は通常親元を離れて保育園で育てられる。

しかしヴァジリアは手許で育て、性教育などもした。

サートン博士と話している時にヴァジリアが泣きついて来たので抱きしめてキスすると、サートンは不快感を解消して再度話をするのに一週間はかかった。

オーロラでは近親相姦は社交的な性交渉のひとつで何も問題がない。

ヴァジリアが成長すると、ファストルフに求愛行動をして来たが、拒絶を繰り返すうちにヴァジリアは別居することになった。

自分の子供を自分で育てるのは失敗だと思った。

子供をバランスよく育てるのには偏愛は必要ない。

グレディアをハイパーウェーブ(テレビ)で観た時、ヴァジリアと同じように性によって傷付いた人だと感じた。

そのため、ファストルフはグレディアにジャンダーを貸したという。

ヴァジリアに会うために、ヴァジリアがお気に入りだったジスカルドを使い、またグレミニオスの名前を出すと直接会えるようになる。

ヴァジリアは大人の女性だったがいわゆる中二病みたいなもので父親とは会いたくなく、ベイリとも時間制限付きで会うことにする。

ヴァジリアは、ファストルフは自分の知的財産を他の研究者と共有しないという。

共有すれば、もっと科学は早く発展する、と。

ヴァジリアと会ったベイリは、ヴァジリアが何回も言い寄って来るグレミニオスを使って、グレディアの所にいたジャンダーを機能停止させようとしたと推理する。

ヴァジリアはベイリを帰らせようとするが、なにかが核心を付いていて会話を続ける。

ヴァジリアはたとえグレミニオスに頼まれても、ジャンダーを機能停止させる方法は知らない。

ロボットを機能停止させたところで何だというのだ、殺人？ロボットは人間ではない。

そして父・ファストルフが自分を子育ての専門家のもとでなく自分の手許で育てたのは、すべて脳の働きを識るためだった、愛など無かったと主張する。

ファストルフは単にヒューマンフォーム・ロボットを完成させようとしているのではなくて、脳の研究を通じて心理歴史学も極めようとしていた、という。

ヴァジリアの性的オファーも、そうなるように追い込んでおいて拒絶した、今でも心の傷が残っている、ファストルフは父というよりただの遺伝子の運搬人だという。

オーロラでもソラリアでも、子供を専門施設に預けてしまうため、通常自分の子供は分からなく

なる。

また性交渉は社交なのでたとえ自分の子供でも問題ではない。

ヴァジリアはファストルフになぜ自分と出来ないかを訊いたら、ファストルフは彼女観察するための客観性を維持出来なくなるからだ、と言ったという。

ファストルフは最初から脳の成長、働きしか興味が無かったのだ。

ヴァジリアはファストルフを自己中心的と非難する。

ベイリはファストルフの研究は人類の直面している最も重大な二つの問題「人間の脳の特性と銀河への移住」と理解し、ヴァジリアがそれに対して自分の常態について固執するのは、同じく自己中心と考える。

しかしヴァジリアはさらに話を継ぐ。

ファストルフがグレディアに興味を示したのは、彼女がオーロラ人であるため。

オーロラの鋳型で育った脳に関心があるがため。

地球人であるベイリを呼んで捜査を依頼したのは、地球人の脳の働きに興味があるため。

そのために色々なストレスをかけてテストしようとしたはず。

ベイルはファストルフがスパイサーの瓶を自分に投げつけようとしたことや、立体映像効果のあるパーソナルに入れたことや、捜査中に浮かんで忘れたイメージを取り出すために、脳に傷を残すかもしれない精神探査(サイキック・プローブ)にかけようと提案したことを思い出した。

ヴァジリアはファストルフ自身こそ、無罪を証明するためにサイキック・プローブにかけられるべきだという。

つまりはすべてファストルフの脳研究のためで、グレディアがジャンダーと関係が出来た上で機能停止させて反応を見る実験をしているのだ、とヴァジリアは言う。

しかしベイリはなおも、ヴァジリアとグレミニオスとの間に間接的謀議(ジャンダーを殺す)があったと考える。

ベイリはロボットの機能停止は刑事事件でなく単なる民事事件、有罪になれば、しばらく仕事ができないかもしれない、という。

共用パーソナル(レストルーム)に入っていると、グレミニオスが突然入ってくる。

グレディアから連絡を受け、グレミニオスがRジャンダー殺しで疑われていることを知り、ロボット工学研究所で働いているグレミニオスは直ちにベイリを探して話しに来たのだという。

(なぜグレディアが自分にしつこいグレミニオスにコンタクトをとって情報提供するの?)

グレミニオスはベイリを自宅に案内する。

グレディアはベイリに言われた通りにグレミニオスを疑ってコンタクトして来たという。

自分に向けられた嫌疑が解かれない限り、人権擁護委員会に、研究所所長ケルドン・アマディオを通して訴える用意があるという。

グレミニオスはヴァジリアのアーティスト・デザイナーをしていた時期に彼女の秘密の打明け話

を聞いたという。

それよるとヴァジリアはバージンだった。

グレミニオスは一夫一婦制を望み何度もヴァジリアにオファーしたが、そのうちヴァジリアはソラリアから来たグレディアのことを話した。

ベイリがグレディアとジャンダーが愛し合っていることを知って、嫉妬したのではないか？というグレミニオスはベイリに殴りかかった。

ロボット達に止められると、思春期における暴力について語り合う。

(ここのおかしい。グレミニオスは嫉妬を疑われて怒ったのだから、思春期の一般論を語るゆとりは無いはず。ベイリに言葉の使い方に注意するなどするはず。)

グレミニオスはヴァジリアに言われてグレディアのことを知らされ、グレディアにオファーは何度もしたが、ジャンダーを機能停止しようとしたことは無いという。

教えられれても不可能。

次にベイリはアマディロに会うため、その助手シシスと話す。

アマディロがジャンダー殺しの件で法廷に立つ必要が無いかどうか実際に会って話を訊くと宣言し、アマディロのいるセンター・ビルへ向かう。

アマディロ

「ファストルフは高度な、自分しか達し得ていないロボットの技術をほかのロボット研究者とシェアしない。ロボット技術のさらなる発展を遅らせる」

ベイリ

「ジャンダー殺しの共犯者として、ヴァジリア、グレミニオスといっしょに訴えるぞ」

アマディロ

「ファストルフが作ったダニールより性能のいいロボットをたくさん作り、さらに男女、子供ロボットも作り、未開の惑星を開拓させる。そうすればオーロラの間人も移住先でもそのままの生活レベルで暮らせる」

ベイリ

「ロボットのレベルを上げて家族も作ると、やがて開拓したロボットはオーロラ人を迎えると抵抗するのではないか。

地球人たちを開拓に使って多様性を残すべきだ。地球人による宇宙開拓を承認すべきだ」

(話がロボット殺し犯の捜査やその方法の追求から脱線して、未開拓の惑星の開拓をロボットに任せるべきか、地球人に任せるべきかの話になってしまっている)

アマディロ

「ファストルフもひとりで研究してないで、みんなと協力して研究すればいいことあるのに」

「あなたは研究所のメンバーの士気をくじく恐れがあるという点で危険。逮捕・拘束も出来るぞ」

ベイリ

「ダニールとジスカルドが守ってくれるのだ」

アマディオ

「命令すれば100体のロボットが飛んで来る、勝ち目はないぞ」

ベイリ

「ダニールとジスカルドは自分を守るというのが最優先命令。あなたを倒すことも出来るぞ」

アマディオ

「今の言葉、ロボットが録音しておいた。これでファストルフは私を殺そうとしていたと議会で証言出来る！」

ベイリ

「...!」

アマディオ

「自分は地球人の味方である。オーロラは宇宙帝国を目指しているが、地球人が宇宙へ出ないのなら、地球自体は問題視しないでおくことが出来る。でも地球人が惑星開拓に乗り出すとオーロラ人は地球を警戒してしまう」

ベイリ

「オーロラ人はロボットを差別しているからダメだ。その証拠にパーソナル(トイレ)にロボットは入室禁止じゃないか！」

アマディオ

「ロボットは排泄しないから入る必要ないでしょ」

「もうあなたの負けだから、地球に帰りなさい」

「トイレ使って行ったらどうですか？」

ベイリ

「トイレにダニールもジスカルドも入れる！」

ベイリ→ダニール&ジスカルド

「アマディオはトイレの外で待っているかな？ほかのロボットが待っているかな？」

外へ出たところでアマディオに見送られて、雷に動揺するベイリ。

アマディオがベイリを引き留めていたのは、帰りに雷雨に巻き込まれることを予想してのことだったのか。

「こんなに水が降って来て車は動くのか？」

ベイリは雷にびっくりしてロボットに担がれてエアーホイールに乗せられる。

気づくと、グレディアの家だった。

その晩、グレディアはベイリのベッド入って来る。

翌日、ファストルフの家に行き、アマディオが議長といっしょに来て審問。

議長はファストルフのヒューマンフォーム・ロボット、ジャンダーが破壊されたことは器物損壊程度の問題で、大きな問題は、アマディオの唱えるオーロラ人だけによる銀河系開拓か、ファストルフのよる地球人による開拓だという、

ベイリは、アマディオはジャンダーはグレディアの夫ということを口走ったと指摘する。

ヒューマンフォーム・ロボットの設計・製法情報はファストルフ博士の独占知識でなく、ヒューマンフォーム・ロボット自体からも盗めるという。

グレディアとグレミニオスはいつも決まった時間に外を散歩していた。

そこにアマディオは立体映話を使って、ジャンダーと話しながらいろいろテストしていたが、偶然ジャンダーは機能停止してしまった。

そこで今度は狙いをダニールに変更したという。

議長はアマディオの罪を認め、しかし議会に混乱が起こらないよう歩み寄りを提案する。

ファストルフは、宇宙国家連合とオーロラと地球が等しく銀河系を開拓して行くという妥協案を提示し、アマディオものちに発生するだろう問題を掲げながらも了承する。

議長は地球人がオーロラ人に勝ったという印象を世間が持たないように、ベイリを早く地球に帰還させよとファストルフに言う。

ベイリはファストルフに出発までの時間をお別れの挨拶に使う。

そしてグレディアに会い行き、これからはグレミニオスと付き合っで与え合うことにすればいい、という。

そしてロボットのジスカルドと野原の木の下に行き、ジスカルドが実はジャンダーを機能停止させた犯人で、ジスカルドには読心能力がある、と看破する。

ジスカルドは、ヴァジリアがいろいろプログラム修正しているうちに読心能力が芽生えたということ認める。

ダニールのように容貌を人間のように作ることより、複雑な中味を作ることが難しい。

アマディオがジャンダーの設計の秘密を探ろうとしている時にそのことに気付いたが、アマディオ脳をいじるには複雑で傷つける心配があったので、ジャンダーの方を殺したという。

そしてファストルフグレディアに地球人を呼び寄せるように衝動を植え付けたのもジスカルドだった。

ファストルフはオーロラは問題対処するのに穏やかに解決しようとして見えない壁を造るきらいがあるという。

しかし地球人は議論を厭わない。

ファストルフは銀河系を開拓して行くのは地球人だと主張する。

ジスカルドは話を聞いたりファストルフ、グレディアの記憶を頼りに地球人ベイリを知った。  
そして確かめたいためにベイリを呼ぶことにしたのだった。

ロボットに三原則があるように、人間にもなんらかの原則があるのではないかとジスカルドは考えた。

ジスカルド「地球の夜明けとなるでしょう」

ベイリ「さようならフレンド・ジスカルド」

ジスカルド「さようならフレンド・ジスカルド」

→つまりファストルフ博士の血を継いだ娘ヴァジリアがロボット・ジスカルドに読心能力、遠隔操作能力を付与できていた、ということは、ヴァジリアは優秀だった、ということか。  
そのジスカルドがファストルフ博士の意志に添うように関係者のところをコントロールした。。  
。

<メモ>

ベイリはかつて宇宙から地球を観たが、地形が分からず、本当に地球かどうか分からなかった。  
→未来の人間にそんなことがあるだろうか？  
ベイリは広場恐怖症。

オーロラの太陽は、くじら座のタウ星。地球から11.5光年。生命の存続が期待されていたが現在ではそれほどでもないと考えられている。

自転速度は約20時間。

人口2億人。

ファストルフの住む都市の人口は2万人、ロボットは10万體。

ソラリア同様、立体映話(トリメンシック)を各家庭に装備していて遠隔地の相手と話ができる。

宇宙国家連合の星々は無菌状態で、宇宙人(スペーサー)はいろいろな雑菌に感染しうるので、地球人との直接接触を避ける。

西暦はどのくらいか？

議長の年齢が331歳。

地球人が宇宙開拓をして、宇宙人として寿命が伸びた時代以降に誕生したはずなので、西暦は少なくとも2500年以降と考えられる。

惑星：  
ソラリア  
オーロラ  
エクソン  
パラス  
スミシューズ

Mental Freeze Out:ロボットの精神機能停止。

ファストルフ

「我々より活力旺盛な文明に取り囲まれれば、その活力のまえに我々は衰退して行くに違いない。浪費してしまったおのれの潜在力に気づいて、その衝撃によって死に至るだろう」  
「無論その代わりに他の方面に発展して行く可能性もあるだろう。科学を探究していく知力とか文化を推進していく活力を発展させるというようなことに。  
これら2つは分離しえないものだ。一つが衰えれば、全てが衰えしまう」

現実的なストーリーの展開であるならば、、、という疑問。

- ①ベイリがなぜ宇宙国家連合最強のオーロラで起きた事件に呼ばれる必要があるのか？の必然性が明らかにされるべき。
- ②ベイリを捜査に雇うのは、オーロラの警察であるべきでは？なぜ、ファストルフが出迎えてベイリの身柄を守るのか？
- ③ファストルフ博士はジャンダーを破壊できるのは自分だけで、自分以外誰もその技術を持っていないと主張し、動機も無いことは無いみたいなことを言うが、会話の流れが異様。
- ④さらにジャンダーがベイリの知り合いのグレディアに預けられていたこともファストルフは言わなかったのはなぜか？ベイリをオーロラに招待して事件究明を頼んでいるのならなおさら！
- ⑤主題の話に入る前に、メインストーリーとは関係無い、またはそれを色付けしない描写が多い。思い付くままに書かれた草稿。
- ⑥会話の形式が教授と学生がブレインストーミングでQ&Aをしているみたいで実際的ではない。判明している事実は最低応えるべき。
- ⑦そもそもファストルフ博士が作ったジャンダーをグレディアか博士が壊したとして、それがなぜ博士たち人類党の反対派政党の世界党が博士を追い落とす材料なり得るのか？？
- ⑧報告・連絡・相談。会話しているが、最初の段階でもっと突っ込んだ話が無い。
- ⑨なぜグレディアが自分にしつこいグレミニオスにコンタクトをとって情報提供するの？

ロボット外見がよりリアルに人間のようにであれば、無意識に性能も上と考える。